

種子島から得られたナガサキフエダイ *Pristipomoides multidentis*畑 晴陵¹・本村浩之²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-24-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

フエダイ科ヒメダイ属 *Pristipomoides* は世界に 11 種が知られており (Allen, 1985), このうち、日本からはハナフエダイ *P. argyrogrammicus* (Valenciennes, 1832), キマダラヒメダイ *P. auricilla* (Jordan, Evermann and Tanaka, 1927), オオヒメ *P. filamentosus* (Valenciennes, 1830), キンメヒメダイ *P. flavipinnis* Shinohara, 1963, ナガサキフエダイ *P. multidentis* (Day, 1871), ヒメダイ *P. sieboldii* (Bleeker, 1854), バラヒメダイ *P. typus* Bleeker, 1852, およびシマチビキ *P. zonatus* (Valenciennes, 1830) の 8 種が知られている (島田, 2013).

ナガサキフエダイはこれまで国内において、山陰地方、九州北岸と琉球列島から報告されてきた (Temminck and Schlegel, 1843; Jordan et al., 1913; 藤山, 2004; 島田, 2013). 2016 年 1 月 12 日に種子島南方で 1 個体のナガサキフエダイが採集された. 本研究は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する.

■ 材料と方法

計数・計測方法は Shinohara (1963) にしたがった. 標準体長は体長と表記し、計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. ナガサキ

フエダイの生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産の 1 標本 (KAUM-I. 83305) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, 固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM: Kagoshima University Museum) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Pristipomoides multidentis (Day, 1871)

ナガサキフエダイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 83305, 体長 416.0 mm, 鹿児島県大隅諸島種子島南方 (30°15'N, 130°55'E; 鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入), 水深 100 m 付近, 2016 年 1 月 12 日, 釣り, 畑 晴陵.

記載 背鰭棘数 10; 背鰭軟条数 11; 臀鰭棘数 3; 臀鰭軟条数 8; 胸鰭軟条数 16; 腹鰭棘数 1; 腹鰭軟条数 5; 側線有孔鱗数 48; 前鰓蓋骨上の鱗列数 6; 背鰭前方鱗数 14; 側線上方横列鱗数 7; 側線下方横列鱗数 14.

体各部の体長に対する割合 (%) : 体高 32.5; 頭長 31.6; 吻長 11.1; 上顎長 14.2; 眼隔域幅 8.6; 眼径 6.7; 尾柄高 10.8; 胸鰭長 30.4; 眼窩骨幅 7.2; 背鰭第 4 棘長 14.6; 背鰭最後軟条長 17.0; 臀鰭第 3 棘長 8.0; 最後臀鰭軟条長 15.1.

体は前後方向に長い楕円形で、やや側扁し、体高は背鰭起部で最大. 吻端から背鰭起部にかけての体背縁は緩やかに上昇するが、眼の上方でやや凹む. 体背縁は背鰭起部から尾鰭基底にかけて緩

Hata, H. and H. Motomura. 2016. First record of *Pristipomoides multidentis* (Perciformes: Lutjanidae) from Tanegashima island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 42: 225-229.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

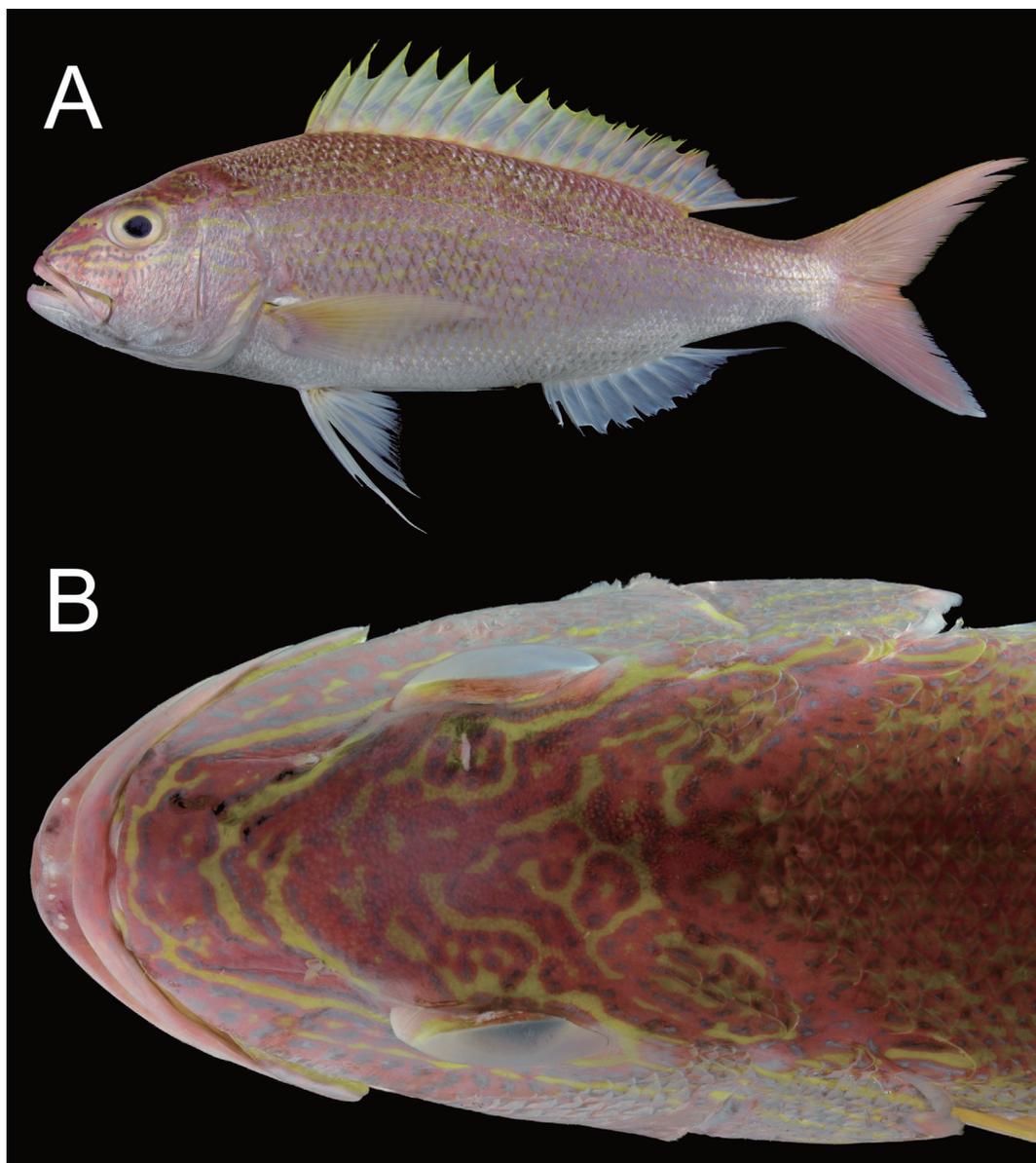


Fig. 1. (A) Lateral view of body and (B) dorsal view of head of fresh specimen of *Pristipomoides multidens* (KAUM-I. 83305, 416.0 mm SL, Tanega-shima island, Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan).

やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけては体軸と平行となり、臀鰭起部から尾鰭基底にかけて緩やかに上昇する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりも僅かに前方に位置し、胸鰭基底下端は腹鰭起部よりも僅かに前方に位置する。胸鰭後端は尖り、肛門には達せず、背鰭第 10 棘起部直下

より僅かに前方に達する。腹鰭起部は背鰭起部よりも僅かに前方に位置し、腹鰭基底後端は背鰭第 3 棘起部直下に位置する。腹鰭最後の軟条は鰭膜で体とつながる。たまた腹鰭の後端は肛門に達しない。背鰭起部は腹鰭起部よりも僅かに後方に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する。背鰭棘は第 4 棘が最長。棘部の鰭膜は僅か

に切れ込むが、背鰭背縁は深く凹まない。背鰭軟条は最前のものでのみが不分枝で、残りは全て分枝する。背鰭軟条部はほぼ同じ高さであるが、最後軟条のみ糸状に伸長する。臀鰭起部は背鰭第2軟条起部よりも僅かに前方に位置し、臀鰭基底後端は背鰭基底後端直下に位置する。臀鰭棘は第3棘が最長。臀鰭軟条は全て分枝し、最後軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二叉型で、深く湾入する。肛門は正円形で、臀鰭起部前方に位置する。眼と瞳孔はともに前後方向に長い楕円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は前後方向に細長い楕円形で、後鼻孔は背腹方向に長い楕円形。前鼻孔の後縁には皮弁をそなえる。体は剥がれにくい櫛鱗に被われ、各鰭、両顎、吻部、眼の周囲、前鰓蓋骨後部は無鱗。背鰭前方鱗被鱗域の先端は眼窩後縁よりも後方に位置し、前縁は楔形。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状を呈し、鰓蓋後縁は円滑。頭長は眼窩骨幅の4.4倍。口裂は大きく、上顎後端は眼の先端よりも後方に達するが、瞳孔の先端よりも前方に位置する。上顎前部には1対の牙状歯をそなえる。上顎側部の外側には鋭い円錐歯が1列に並び、内側には絨毛状歯が密生し、歯帯を形成する。鋤骨歯と口蓋骨歯とともに絨毛状。下顎は先端に1対の鋭い牙状歯をそなえ、側部には1列の円錐歯が並び、舌上は無歯。擬鰓上にフィラメント状の鰓弁を有する。鰓耙は細長く、棒状。側線は完全で、鰓蓋上部後方から尾鰭基底にかけて、体背縁と平行にはいる。

色彩 生鮮時の色彩 体背面から体側は赤紫色を呈し、不規則な黄色縦帯が多数はいる。側線は黄色に縁どられる。体側側線よりも上方の鱗には暗生青色斑がはいる。体側下部の鱗には暗黄色斑が入る。体腹面は銀白色。頭部には吻端から前鰓蓋骨後縁上部にかけて、瞳孔よりも細い黄色縦帯が入り、その上を黄色縦帯よりも細い暗青色縦帯に、下を暗青色点列に縁どられる。眼の下端よりも下方の主上顎骨前部上方から前鰓蓋骨後縁上部にかけて、瞳孔よりも細い黄色縦帯が入り、その下に後鼻孔よりもやや大きく、背腹方向に長い楕円形の暗青色斑が1列に並び、前鰓蓋骨後縁上

部から鰓蓋後縁上部にかけて瞳孔よりも細い3本の黄色縦帯が入る。上顎骨上部は黄色。頭部背面には黄色の虫食い模様と、それらを縁取るように暗青色斑が多数入る。吻部背面には前鼻孔よりも幅の広い、左右方向に長い3黄色帯がはいる、それらは前鼻孔よりも幅の細い暗青色帯に縁どられる (Fig. 1)。背鰭は明るいカナリアイエローを呈し、中央に瞳孔よりも細い赤紫色の縦帯がはいる。胸鰭上部は黄色を呈し、下部は白色半透明。胸鰭基底部付近は白色がかかった赤紫色。腹鰭と臀鰭は一樣に白色。尾鰭は赤紫色で、上部は黄色がかかる。尾鰭下縁は白色。瞳孔は青みがかった黒色を呈し、虹彩は金色。前縁を除いて、眼は鮮やかな黄色に縁どられる。

固定後の色彩 体背面と体側上部は紫がかかった灰色となり、体腹面は一樣に鈍い銀色となる。体各部の黄色斑点は一樣に消失し、暗青色斑は淡い黒色斑となる。各鰭は乳白色となる。

分布 紅海からサモア諸島にかけてのインド・太平洋に広く分布する (Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; 島田, 2013)。日本国内では山陰地方、九州北岸、長崎、奄美大島を含む琉球列島 (Temminck and Schlegel, 1843; Jordan et al., 1913; 藤山, 2004; 島田, 2013)、および大隅諸島種子島 (本研究) から記録がある。

備考 種子島産の標本は、側線有孔鱗数が48、下枝鰓耙数が12であること、吻部に青色斑に縁どられる2黄色縦帯が入ること、生時、吻部背面に左右方向に長い黄色帯がはいることなどが Allen (1985) や Anderson and Allen (2001)、島田 (2013) の報告した *Pristipomoides multidens* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。Allen (1985) や Anderson and Allen (2001)、島田 (2013) は本種の標徴として、体長15 cm, 25 cm, 40 cmの個体ではそれぞれ頭長が眼下骨幅の7.0, 5.5, 4.0倍であるとした。しかし、記載標本は体長416.0 mmであるにも関わらず、頭長は眼下骨幅の4.4倍と、これまで知られていたものとやや異なる。しかしその差は僅かなものであり、本研究では種内変異と判断した。なお、ナガサキフエダイは側線有孔鱗数が48-52であることなどでバ

ラヒメダイ *P. typus* に類似するが、吻部に青色斑に縁どられる2黄色縦帯が入ること（後者では吻部には縦帯がはいらない）、頭部背面に左右方向に長い黄色帯がはいること（前後方向に長い黄色帯がはいる）などで識別される（Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; 島田, 2013）。

ナガサキフエダイを日本から初めて報告したのは Temminck and Schlegel (1843) である。彼らは長崎から得られた標本に基づき本種を *Diacope sparus* として記載し、Jordan et al. (1913) は本種に対し和名ナガサキフエダイを提唱した。現在、*Diacope sparus* は *Pristipomoides multidentis* の異名とされている（Allen, 1985）。その後、篠原 (1966) は石垣島から得られた3個体、那覇魚市場に水揚げされた1個体のナガサキフエダイの形態を詳細に報告した。藤山 (2004) は奄美大島近海から得られたナガサキフエダイの写真を報告した。三浦 (2012) は沖縄県南城市の知念市場に水揚げされた中城湾近海産の体重 1.8 kg のナガサキフエダイ1個体の写真を報告するとともに、本種が中城湾近海において延縄によって稀に漁獲されることを報告した。具志堅 (1972) は沖縄県から得られたキンメヒメダイ *P. flavipinnis* を報告したが、その個体の吻部には青色縦帯が2本あり、ナガサキフエダイと思われる。また、河野ほか (2011) は日本海産魚類目録の中で本種をリストしたが、その産地や根拠は一切示されておらず、詳細や真偽は不明である。島田 (2013) は河野ほか (2011) を引用して本種の分布域に山陰・九州北岸を含めている。

したがって、ナガサキフエダイはこれまで国内では山陰地方、九州北岸、長崎、奄美大島を含む琉球列島からのみ報告されてきた (Temminck and Schlegel, 1843; Jordan et al., 1913; 藤山, 2004; 島田, 2013)。また、藤山 (2004) による本種の奄美大島からの記録の証拠となる標本は残されておらず、記載標本は鹿児島県における本種の標本に基づく初めての記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745)、JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性プロジェクト）学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Vol. 6. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis, 6: 1–208.
- Anderson, W. D. and Allen, G. R. 2001. Lutjanidae Snappers (Jobfishes). Pp. 2840–2918, in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- 藤山萬太. 2004. 私本 奄美の釣り魚. 藤山萬太, 奄美. 179 pp.
- 具志堅宗弘. 1972. 原色沖縄の魚. 琉球水産協会事務局, 那覇. 247 pp.
- Jordan, D. S., Tanaka, S. and Snyder, J. O. 1913. A catalogue of fishes of Japan. Journal of the College of Science, Imperial University, Tokyo, 33 (1): 1–497.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫. 2011. 日本海産魚類目録 (予報). 山口県水産研究センター研究報告, 9: 65–94.

- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェブ企画, 与那原. 140 PP.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 島田和彦. 2013. フエダイ科. Pp. 913–930, 2001–2004. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Shinohara, S. 1963. Description of the new lutjanid fish of the genus *Pristipomoides* from the Ryukyu Islands. Bulletin of Science and Engineering Division, University of Ryukyus. Mathematics and Natural Sciences, 6: 49–53.
- 篠原士郎. 1966. 琉球産フエダイ科魚類の形態・分類ならびに分布に関する研究. 琉球大学文理学部紀要 理学編, 9: 179–301.
- Temminck, C. J. and Schlegel, H. 1843. Pisces part 1. Pp. 1–20 in von Siebold P. F. (ed.) Fauna Japonica. Lugduni Batavorum, Leiden..